

## 震災覚書（平成 28 年 4 月 16 日）

東石松第 2 自治区

平成 28 年度 自治委員 麻生 孝義 記

### ◆ 平成 28 年（2016 年）4 月 16 日（土）

本日未明(01:25AM)、震度 6 弱の地震発生。熊本・大分両県に甚大な被害。湯布院地域も室内の家具が倒れたり、什器の破損・屋根瓦の破損・住宅壁の剥落や亀裂・塀の倒壊など未曾有の被害発生。

震源は、熊本地方の深さ 12km でマグニチュード 7.3。横ずれ断層型の地震。

その後、強い余震が多発。

いよとみ荘駐車場に宿泊客（韓国の方もいた）と近隣の住民が退避。

強い余震の度に周囲の屋根瓦が落下する音が響いて、暗がりの中で悲鳴が上がった。

その後、第 1 公民館・第 3 公民館を避難所として、地域住民と旅館宿泊者の収容を行う。JCHO 湯布院病院にも地域住民が 65 名程避難していた。

長時間の停電あり。固定電話・携帯電話も繋がりにくい状態となり、インターネットも不通となった。

私は、原付バイクで各避難所を廻り、連絡と現状把握に努めた。

LINE での連絡が役にたったと後に第 1 自治区自治委員から話を聞いた。

避難民の誘導・安全確保等には地域消防団の活躍に頼る事が大きであった。

第 3 公民館では古い建物であるため強い揺れに危険を感じ、一旦室内に収容した人々が公民館前の駐車場に出て、ゴザとブルーシートを敷き、毛布や布団にくるまって一夜を過ごした。天井の崩落が危惧された。冬季や雨降りでなく、天候に恵まれたのは幸いだった。

JCHO 湯布院病院は東棟屋上の貯水槽が破損し、東病棟が水浸しとなり入院不可であり、水不足により診療に支障が出ている。トイレも簡易トイレを使用している模様である。

◆ 平成 28 年（2016 年）4 月 17 日（日）

夜明け間近に停電解消。夜が明けて市役所からペットボトルの飲料水が到着。

08:00AM 過ぎに、自衛隊が炊き出した御飯と梅干が届き朝食を食べた。

その後宿泊客は、由布院小学校に移動し市役所の対応にお任せした。

10:00AM 頃には大半の避難者はご自宅に帰った。

不測の事態に備え第 1 公民館・第 3 公民館は 24 時間開放とした。

昼間、地区の民生委員が独居老人等を訪問して下さったが、皆さん無事との事だった。

市役所職員による被害概況聴取があった。

担当自治区である東石松第 2 自治区内を巡回し被害状況を見ると共に、出会った複数の住民に被災時のお話を聞いた。

家屋の屋根瓦特に棟瓦に被害が頻発。ブルーシートで応急処置をした家屋も多かった。塀の倒壊・壁の剥落やひび割れ・田畑の石垣の崩落も散見された。

温泉引き湯パイプ等の被害もあった。興禅院では、山門の仁王像や境内の石像が壊れたり、墓石の被害が多く見られた。

避難場所を伺うと、多くの方が空地に止めた車の中で一夜を過ごした様子だった。第 3 公民館や由布院小学校での屋外に座った避難者の様子を見て、車内での避難に切り替えた方も居た。

階段から落ちた方も居たが無事だった。第 2 自治区内では人的被害はなかったようだ。

本日も地元消防団の巡回もあり、ご近所同士が助け合って落ち着きを取り戻している。

公民館に電池式のラジオ設置を求める意見も聞かれた。長時間の停電でテレビも見られず、情報が得られない不安があったとのことだった。

本日も終日、余震が続いている。昨夜から今朝にかけて時折強い風が吹いた。

日没後には強い風と雨の予報があり、再び公民館に住民が避難した。

第 3 公民館長は、公民館の老朽化もあり避難してきた人々を由布院小学校に誘導した。

雨天となり、第 1 公民館は土砂災害の危険があるので、危険を察知した場合は JCHO 湯布院病院が避難を受け入れて下さるとの約束を頂いた。

危惧された雨量については、大丈夫だったので一安心だった。

余震が続くため不眠を訴える方が多かった。

◆ 平成 28 年（2016 年）4 月 18 日（月）

朝から好天となった。

15:30 市役所から 2 名が被害状況の調査に来られた。同道して東石松第 2 自治区内を案内し、昨日確認した被災ヶ所を約 1 時間かけて見て頂いた。

今日新たに JR 線路脇に地割れ箇所が見つかった。雨が降ると地すべりが心配である。JR に連絡して頂けるとのことだった。

鳴子谷川が大分川に合流する付近（興禅院広場付近）のコンクリート壁に亀裂あり。

20:41 再び強い地震（震度 3 ・ M5.8）があり第 3 公民館を解錠して頂き、東石松区長と待機したが避難の人はなかった。22:40 第 3 公民館閉鎖。

第 1 公民館には 7 名が避難していた。第 1 公民館は地震が始まって以来ずっと開放している由。

大分県内では、本日 22:50 までに震度 3 以上の地震が計 58 回発生したとテレビニュースが伝えている。

東石松第 2 自治区は公民館が無いので第 1 又は第 3 公民館に避難することになるが、第 1 公民館は駐車スペースが少ないし坂の上なので不便であり、第 3 公民館は老朽化が進み危険である。緊急時に避難できる代替施設の確保が望まれる。

◆ 平成 28 年（2016 年）4 月 29 日（金）

15:09 震度 5 強の地震発生（大分中部 深さ 10km M4.4）。

16:30 震度 3 の地震。

18:00 再び震度 3 の地震があった。

16 日の被害に加えて今回の地震で、更に状況の悪化が見られた。

## ■ 特記事項

防災無線に情報が入らなかった。スマホ・携帯電話の地震警報を頼りにした。

社会福祉協議会が避難所に指定されているが、閉鎖されたままで入れなかった。

公民館に車椅子が必要との意見あり。老人・病人など自力で避難できない方を介助するため。

公民館に電池式ラジオが必要との要望あり。

避難場所として第1公民館・第3公民館とも、不適合と思われる。

- (第1) 裏山の土砂崩れの危険。 (第3) 耐震性に不安
- (第2) 公民館なし

「ゆふいん地域連携隊・自治委員」と記した蛍光ベストを着用して、震災及び震災後の一連の活動を実施した。ベスト着用により自治委員の所在が一目で判り、消防や役所との連携や情報交換もスムーズに出来た。

4月に自治委員になったばかりで、まだ地区住民に顔を覚えて頂いてない状態での行動だったが、「地区の自治委員の所在がすぐに判って心強かった」とのご意見を地域住民から頂いた。

連絡や相談できる人が近くにいるという安心感が大事だと痛感した。

第3公民館屋根の防水が地震で破損し雨漏り発生。市役所に補助金を申請。

地震により一時的に物流が止まり、生鮮食品が不足した。

コンビニエンスストアでは、おにぎり・パンなど売切れ状態だった。

屋根の補修に使うブルーシートやブルーシートを押さえるための土嚢・土嚢に入れる砂も早々に売り切れた。

JCHO 湯布院病院では、病棟の水害によって入院患者の一部を他の病院へ転院させるなどの処置が必要となった。

予期せぬ災害を体験して、自然に対する人間の無力を痛感した。